

# おれんじニュース



No279

2013年6月号

5月5日夏木山の周回ルート大鋸、小鋸を通り終えて昼食を取った。カラマツとアケボノツツジの中で

今月号の感想

渡神岳・大野原・猪見岳・東鳳翩山・筋ヶ岳・弟見山・夏木山・黒門山、

## ★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から

	2013年6月	2013年7月	時 間	場 所
運 営 委 員 会	12日(水)	10日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館
全 体 集 会	26日(水)	24日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館

ショウジョウバカマを求めて  
渡神岳への七人の旅ははじま  
った。写真提供田村さん。



猪見岳の  
収穫物を手  
に満足満足



筋ヶ岳の鎖場・← 2の鎖・↑ 3の鎖  
写真提供鎗水氏

# 2013/6月の山行



部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部	自然保護部	技術研修部
月・日	6月2日(日)	6月8日(土)	6月14日(金)	6月19日(水)	6月22日(土)
山名(行事)	岩屋山(475m)	鶴見岳(1374.5m) 鞍ヶ戸・内山	九千部岳(1062m)	五ヶ原岳(1058m) クリーンハイク	熊群山(804.4m)
地 図	長崎西北部	別府西部	雲仙・島原・愛野	多良岳	豊後今市
集合場所	西諫早駅9:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 9:00	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難易度	初心者	初心者&健脚	初心者	初心者	初心者&健脚
帰着時間	17:00	19:30	17:00	17:00	18:00
歩行時間	4h	4h	3.5h	3.5h	3.5h
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイカー	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	無し	有り	有り	無し	有り(?)
参加費	1000円	5000円	1000円	1000円	5000円
申込期限	定員なり次第	定員なり次第	定員なり次第	随時	定員なり次第
集 約	佐原	田中	林	中村	佐原
備 考	岩屋権現にも 足を運びます	山頂一帯のミヤマ マキリシマ群落 が見事です	ヤマボウシが見 事です	ミツバツツジの 咲く道をゴミを 拾って綺麗にし よう	ヤマホトトギス がさいています。 岩登りも楽しめ ます。
感想文提出	6/12	6/18	6/24	6/29	7/2

日程の変更です

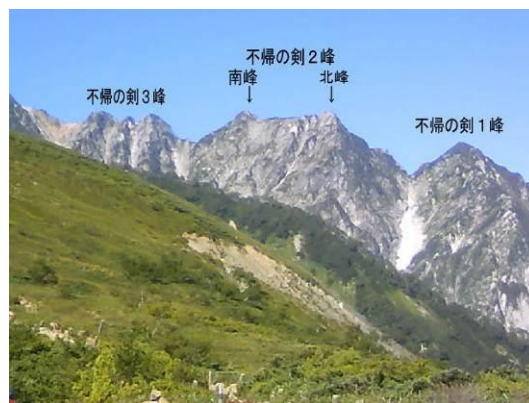
山の変更です。

## 技術研修部だより

6月29日(土) セルフレスキューです。  
西諫早駅前 9:30 集合

## 夏のアルプス計画

しろうまだけ かえらずのけん かしまやり  
8月下旬 白馬岳～不帰剣～鹿島槍  
(申込み川原へ)



## 2013/7月の山行



部	技術研修部	ひまわり山行部	自然保護部	山行部
月・日	7月7日(日)	7月19日(金)	7月23日(火)	7月27日(土)~30日(火)
山名(行事)	久住山 (1786.9m)	一切経の滝 高岩山	八天岳(297m)	白山
地 図	湯坪・久住山	雲仙・島原		加賀市ノ瀬・白山
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00	西諫早駅 9:00	西諫早駅 13:30
難易度	中級健脚	初心者	初心者	中級
帰着時間	20:00	17:00	16:00	30日 8:00
歩行時間	4.5h	3h	4h	28日 3.5h/29日 7~8h
交通手段	マイクロバス	マイカー	徒歩	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	27日船中泊/28日山小屋
温泉	有り	有り	無し(?)	有り
参加費	5000円	1,000円		50000円
申込期限	定員なり次第	定員なり次第	随時	定員になり次第(12名)
集 約	佐原	林	中村	田中
備 考	リョウブやミズナラ、カエデの樹林帯を歩きます。赤水温泉から登ります。	三鉢の松を見に行こう 滝も涼しいよ	稲妻大蔵の伝説を尋ねてみよう。涼しい林の中を歩きます。	夏の花の美しい所です。まるでお花畑のようです。
感想文提出	7/17	7/29	8/3	8/10

### 新しい仲間

#### ☆柳迫香代子さん・・・(4月より入会)

4月より入会させて頂きました柳迫です。1月、2月5月と皆さんと山と一緒に同行させて頂きました。皆さんの優しいアドバイスを登る楽しさも少しずつ実感させて頂きました。今から少しずつ知識と山の楽しさを教えてもらいながら、皆さん及び山とよき友達になれば最高だと思います。これからもよろしくお願ひ致します。



#### ☆野中勝廣さん・・・「野中整骨院」(5月より入会)

オレンジ会に入会して初めての雲仙新道登山。新緑、こちよ風、又ヒカゲツツジやミヤマキリシマ、登山道近くに咲く小さな花がきれいでした。皆さまの励ましで登る事が出来、全員無事に下山することができました。久しぶりの筋肉痛を味わい楽しい一日でした。これからもよろしくお願ひします。

# 2013年4月/5月の山行報告



4月13日(土)

## 渡神岳(1150.2m)

(参加者) 福岡、中須賀、鎗水、田中(静)、小山、田村、林田(7名)

(行程) 西諫早駅前 6:30—金立—日田 8:30—前津江村—椿ヶ鼻ハイランドパーク 12:05  
—昼食—12:40 登山口発—シオジ林 13:35(ここで引き返す)。  
健脚組を待って合流 14:40—下山口 15:35—日田—西諫早

(感想) 朝、西諫早駅前で車を待っていると、〇〇病院のマイクロバスが停まった。

今日、お世話になる車だった。参加者は数名のキャンセルがあり、7名でちょっとさびしい。

車は高速道路を走り日田インターで下りて前津江村へ。

9:30 蜂の巣湖のダムの所で休憩をとる。湖のまわりを進み道路脇にはシャクナゲや三つ葉ツツジなど花いっぱい楽しいドライブが出来た。10:30 渡神岳方面への登山口は通行止めの立て札があり別の道を鎗水さんと田中さんが調べて下さって1時間後に出発した。



杉林の中を進みやがて山桜と新緑の美しい景色になった。ずい分山奥へ来たと思ったら車が進まない。故障かと心配したがドアが完全にしまっていなかった為でホッとした。

やっと車が着いた所は見覚えがあった。2基の大きな風車のある椿ヶ鼻ハイランドパークだ。



以前は反対方向から登って来たようである。

もう12時をまわっていた。昼食をすませて東側の登山口から行ける所まで行く事にして出発する。

すぐに登山道わきにはショウジョウバカマの花ざかりで感激!

皆、シャッターを押している。イワカガミにも似た様な白や赤っぽいのもあり可愛い花をみれてよかったア。

健脚の4名は頂上まで急ぎ足で行かれたが我々3名は途中までも良いと思いのんびりと歩いた。登山道は大きな起伏もなく歩きやすい。

杉林や雑木林を過ぎ荒れた谷筋にロープがありここを渡って芽吹きはじめたシオジ林あたりまで行き頂上まで行った人と電話連絡して引き返し途中で健脚組を待って一緒に下山した。登りには気づかなかった林道、地蔵様峠にはひっそりと地蔵様が祀られていた。

登山口にもどったのは15:35、バスに乗り帰路に着いた。

春まっさかりの新緑と花にいやされた観光気分の楽しい1日でした。

(林田 記/文中写真は田村さん)

4月26日(金)

## 大野原・猪見岳(590m)

(参加者) 兵庫、小山、円能寺、工藤、佐原、林、林田、田村、森す、山下、星子、山口 12名



穏やかな良いお天気、今日の山行は 東彼杵町 猪見岳へ。平似田交差点より右折 多良山麓へ登る。茶畑が見え始め、次に なみなみ と水をたたえた蕪池へ到着。すぐそばには 会員 I 氏の山荘が建っている。雑草一本も無いほどに手入れが行き届いていてすばらしい。先ず池の回遊路を散策することに。1.5キロ程の散策路にはツワブキもちらほら。石楠花、スズラン、つつじ、もみじ、えびね蘭等が植えられ、四季を通じて花を愛でながら湖畔の散策ができるように整備してある。茶畑は一番茶摘みを終え二番茶の成育待ちといったところだろう。

駐車場近くで きん蘭 をみつける。開花前の端正な姿をみせてくれる。

♪ きんらん緞子のお〜びしめな〜がら〜♪ と、どこからかなつかしい歌声もきこえる。

次に猪見岳へ。登山口の標識は足元にあるが小さくて見落としそう。コンクリート舗装道からヒノキ林を100m程入ったところで演習場の草原が広がる。すぐ目の前に山頂が見えるのだが、それよりもわらびがニョキニョキとあるわ、あるわ。200m程の急坂をあっという間に山頂へ。山頂は実弾演習の着弾観測地点になるそうで眺望の良さは抜群である。郡岳、遠目岳をはじめ360度の展望はすばらしい。遠目集落へ向けて座り弁当を食べるのだがそこもわらびがニョキニョキ。弁当もそこそこに取り始める。たちまち袋も一杯になり未練を残しつつも帰ることに。

帰りは龍頭泉へと足を延ばす。階段を下りて滝へ。落差20mの滝が岩盤の間を流れ落ちる様が龍頭に似ているからその名がついたとのこと。峡谷の淵を1キロほど下る。人気のない峡谷には山藤、三つ葉つつじ、うつぎが色を添えている。車へ戻って散会となる。料理に詳しいMさんによると、わらびの灰汁の抜き方は鍋にたっぷりの湯を沸騰させ火を止め重曹とワラビを入れ浮かないように皿一枚をのせ1晩おく。

次に食べ方は水洗いしたワラビをざく切りにし削り節をかけ冷やしてかけ醤油で食べる。これをワラビのお刺身といい一番おいしい食べ方だそうです。ほかにもみそ汁の実や、炒めもの、煮物などに。それにワラビ狩りにはビニール袋ではなく布製の袋が適しているとも。

参加された方の食卓を多分に賑わし話も花が咲いたことでしょう。皆さん、来年もそろってワラビ狩りに行きましょう。とにかく楽しい1日でした。野焼の様子を確かめに何度も足を運び、この日を設定していただいたK先生、本当に有難うございました。(山口 いつこ記/文中写真は田村さん)



有り余る程のわらびや

猪見岳

4月28日、29日

## (山口県) 東鳳翻山、苜ヶ岳、弟見山

(参加者) 川原、鎗水、松岡、小山、國分、佐原、林、森、山下 (9名)

(行程)

28日：西諫早駅 6:30－筑紫野高速バス停(國分さん合流)－山口 IC－天花畑、錦鶏ノ滝駐車場 10:47－錦鶏の滝雄滝からスタート 11:07－ナマナマコース－東鳳翻山山頂着 12:46－頂上直下で昼食－二ツ堂コースを下山－登山口着 15:00－瑠璃光寺見学－太陽堂旅館 16:30

29日：旅館出発 8:00－小河内藤橋 8:25－石鎚神社パーキング 9:17－苜ヶ岳登山口 9:24－鎖場との分岐 10:18－第2鎖場 10:23－第3鎖場 10:44－苜ヶ岳頂上 11:04－弟見山着 12:38－兄見山 13:23－仏峠 14:15－願成就温泉－山口 IC－諫早着 20:30

### 4月28日

東鳳翻山、ドサ廻り山旅

(感想) 6:30 諫早発、10:00 過ぎに中国自動車道の小郡 IC を出る。IC を出る時抜き打ちの交通取り締まりに遭って、後部座席あたりのシートベルトを着用していないところを見咎められ、ドライバー井上さんに迷惑をかけてしまった。申し訳ないことである。今後注意しなければいけない。

小郡から山口市街地を通り登山道へと向かう。途中で瑠璃光寺の五重塔がちらりと見えて、下山後の楽しみが膨らんだ。

錦鶏の滝入口の駐車場を 10:47 に歩き始め萩往還と別れ錦鶏の滝、雄滝へ 11:00 過ぎに到着し、20m以上の高さから落ちる飛沫と涼しい風を浴びた。

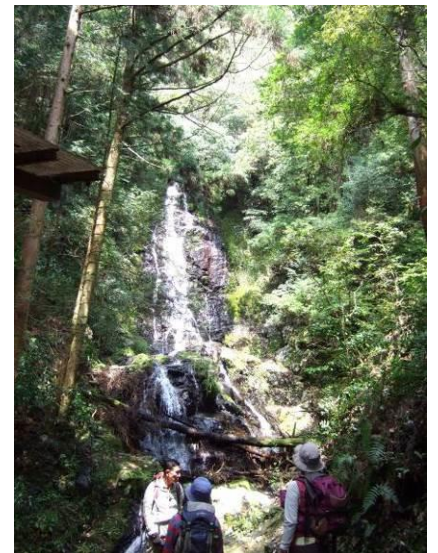
東側のコース、急で荒れたナマナマルートに登り 50 分で二ツ堂から上がってきたルートと合流すると良く整備された穏やかな山道となった。

所々に三つ葉つつじがピンクの花を咲かせて、迎えてくれる。

標高 734mのこの山は九州の山と殆ど変りない植生が茂り暖かい里山の雰囲気を色濃く感じさせた。ゆっくり登って、春爛漫の陽射しの中を 12:46 山頂に着いた。ここは 360 度の大展望が広がる。目の前に西鳳翻山も大きく聳えている。多くの登山者があちこちで昼食を摂っていた。そのせいか

蠅が音を立てて飛び回り食事の気分にはなれず、一段下の草原へ下りることにした。山頂で写真を撮ってくれた青年は、長崎の福田出身で快活で明るい若者であった。「こちらで嫁さんも捕まえたので生涯をここで暮らすだろう」と云っていた。

13:00 過ぎ、少し下った草原で昼食を摂る。



下りに、イカリソウを見つけた。二つ堂への歩き易い道を下って行った。15:00 前に車の待つ登山口へ着く。下山後の楽しみ瑠璃光寺はすぐ近くである。山門を入るとボランティアガイドさん達の詰め所が開設されていた。鎗水さんがお願いしてガイドして戴く方は何十年前前に長崎大学を出たと云う人で、今日二度目の偶然の出会いである。瑠璃光寺を建立した大内氏や毛利家の歴史を詳しく語られた。五重塔は後の山や周りに茂る木々の間に美しく、大きく、重厚に聳えバランスの良い立ち姿が印象に残る。よくぞはるかな昔これほどの建築技術があったものである。

柏手を打てば、ビンビンと響く石畳は、どこかのお寺の竜の天井絵のある廊下の「鳴き竜効果」である。何度も火災で焼けたという本堂には、びんずる尊者と布袋様が祭られ赤銅色の像は多くの参詣者に撫でられて光り輝いていた。

午後4時頃アーケードの中に玄関を持つ老舗の旅籠、太陽堂へ。私たちの旅は観光ルートを外れた、ドサ廻りの旅である。明日もまたルートを外れ、野を越え山を越えて未知の山へ向かう。

(川原慶紀 記)

## 4月29日

(感想) ①プロローグ 太陽堂旅館&布団寝取り寝取られ事件

4月28日(日) 山口市内で泊まった「太陽堂旅館」一名前が何とも言えない趣がありますねーは昭和の匂いが色濃い味わい深い宿でした。

山口市中心のアーケード街の又このド真ん中に位置し旅館の前のアーケード通りは **Once upon a time**一昔々、山陽道と呼ばれたそうです。

説明してくれた若(?)女将はなかなか貫禄があり弁も立つ方ではありましたが一緒に飲んでみたいとは思いませんでした。(単なる私見です、すいません)

夕食後宴も終り、自分が一番に床につきましたが、喉の渇きと尿意でトイレに立った所、同室の鎗水さんも連られて起きてこられました。自分はとりあえず手近の布団に素早く潜り込んで朝までグッスリ快眠したのですが、翌朝「松岡さんどこに寝た？」と問われて「嗚呼、鎗水さんの布団に入ってしまったのか」と気づかされました。

簡略して言うと鎗水さんの布団を自分が寝取ったという事になりますか……

まあ寝取る方もかなりおかしいとは思いますが寝取られる方も何か情けない様な気分もしないでもないかな？

勝った様な気分も若干あるのですが皆さんどう思います。今度鎗水さんの奥さんにお会いした時は(まだ、お会いした事はありません)何か罪悪感が湧きあがりそうで……困ったな。

次元の低い話はさておきまして

②美しい国の里山から鎖場が呼ぶ筋ヶ岳へ

山行はとても素晴らしいものでした。

太陽堂旅館を出発して小河内にさしかかった頃、カメラと三脚をかかえた人達で賑わってる所に遭遇しました。車を停めて下りてみると右手に以前は藁ぶきだったと思われる風情のある農家、その前を小川がながれ農家と道路を結ぶ木橋、その木橋の上に藤の花がア





一チ状にかかっているという光景、更に農家からおばあちゃんが腰を丸くして杖をつきながら行ったり来たり渡るといった趣向。絵になっていました。

さすが「美しい国日本」の地元、演出に卒がありません。しかし言わせてもらえば演出ばかりでつい最近では背番号「96」のユニフォームを着ちゃったりして中身はなくてパフォーマンスばかりだとも思うのですが。

春の風も顔に心地よくあたり新緑も目に爽やかな登りでした。数々の山の花々、ちなみにイカリソウ「錨草」、イワカガミ「岩鏡」、ショウジョウバカマ「猩猩袴」、などなどが目を楽しませてくれました。

そして10時20分頃山頂直下の鎖場に到着。

自分も大好き(?)な岩登りに挑戦しましたが、皆さんのアドバイスを受けながら何とか第三の鎖場を登りきる事が出来ましたがかじりつきスタイルはなかなか改善されていないのでまだまだ訓練の必要を感じております。

### ③フィナーレ 弟見山 カタクリの花道へ

11時13分、全員砦ヶ岳に登頂。素晴らしい景観を楽しんだ後2班に分かれ自分達はカタクリを目指して弟見山に向かいました。結構長い歩きが続きましたが山頂近くまで来てもなかなか目当てのカタクリは現れず今年は駄目かとあきらめかけた時突然草陰に2輪のカタクリ「片栗」—温帯林の林床に生え草丈は10~20cm、花は茎頂の一つずつ下向きに咲き花被片が茎部から強く上方に反りかえる(何かこれって良い感じ)ピンク色稀に白花の花がひっそりとそして凛として目に飛び込んできました。



鎗水さんが長い足を思い切り伸ばし腹這いになって激写、山下さんも(?)足を目いっぱい伸ばしてモロ腹這いで一心不乱に激写されました。—感動シーンです。



凛と咲くカタクリ・写真提供鎗水氏

が下山して来た人が事もなげに上にはもっときれいなのがいっぱい咲いてますよとさりげなく言われて一寸肩すかしを受けましたが12時20分山頂まで来ますと本当に一面素晴らしいカタクリにカタクリニヨルカタクリ見たさで上がって来た人達の為の花道、山行経費も完全に元取れたという気がしました。満足度100%の山行でした。

(松岡 記)

5月4日(土)、5日(日)

黒門山(1036m)・夏木山(1386m)

(参加者) 中須賀、福岡、川原、小山、久保(元)、田中(静)、山下、高森、林田、山口、田村、金丸(直)、久保(陽) (13名)

(行程)

4日: 西諫早駅 6:30—金立 SA—東背振—九重—佐伯 IC—唄げんか大橋—藤河内湯〜とぴあ 12:00(昼食)—黒門山登山口 12:45—黒門山頂上 14:45—下山—藤河内バンガロー16:20—湯〜

とぴあ（温泉）夕食—就寝

5日：7:15 バンガロー出発—7:45 夏木山登山口—9:55 夏木山頂上着—下山—10:35 分岐—一周  
回コース—大鋸・小鋸—犬流越—犬流口登山口 15:15—駐車場 16:00—高速佐伯 IC18:00—諫  
早着 21:20

(感想) **4日** 「これは山登りじゃない。行だ。」黒門山への登頂途上で Y さんが発したこの言葉はまさしく私たち斥候部隊の精神状態を表していたように思われます。まず、苦難の始まりは登山口(?)からわずかに進んだ時からはじまりました。ふつう山登りはちゃんとした登山道を歩くのが常道ですが、今回はその登山道がないのです。目の前に広がるのは土石流によってぶちぎられ、無残にもその赤裸々な姿を露わにした山肌。これは……。どこを歩けばいいのだ。推定何十トンもの岩が行く手を阻んで、か弱き乙女(かつてはそうだったであろう)たちも茫然と立ちつくす他ないような様子でした。

かつて私も十数年前まったく同じような状態に置かれたことがあります。長者原といえば、天気がよければ多くのハイカーたちでにぎわう九重のオアシスですが、その日はどんより曇り、いまにも泣き出しそうな空模様でした。それでも坊ヶツルキャンプ場でのんびり流れる雲をながめビールを飲みながら、至福の時を過ごすため悪天候覚悟で出立しました。

すると、歩き出して 30 分も経たないうちに見たこともない光景に出くわしました。樹林帯の先に道がないのです。今回と同じです。ぶちぎれているのです。どこを歩けばよいのかもわかりません。茫然自失の状態でした。しかし、どうしても坊ヶツルでのビールがわすれられません。他のことはあきらめてもこれだけは譲れません。果敢にも岩の間を歩き出しました。すると、小雨が降ってくるではありませんか。「ああ、天は我々を見放した」の神田大尉の言葉を引用するにはちとオーバーですが、雨脚が強まりました。雷も鳴り出しました。最悪です。ふつうの人が取る行動は当然退却ですよ。

しかし私は果敢にも攻めまくりました。もうかなり登ってきたし、ここで引くわけにもいきません。すると、あろうことか、こんな状態でも便意をもよおしたのです。あたりは当然のことながら、誰もいません。いるわけがありません。その場でしてもいい(?)のです。しかしそこは伊集院静ではありませんが、大人の流儀です。樹林帯に登り、用を済ませてまた登ろうとした、そのとき北朝鮮からのミサイルの閃光と耳をつんざく音・おと・音。なんと雷が近くに落ちたのです。山登りのだんじゃありません。山登りは命がけでするものではありません。楽しんで登るものですよ、ね、みなさん。

考えてみるとビールはどこでものめます。しかし、命は一つしかありません。考えてみると、いや考えなくても当たり前ですよ。その結論に達するまで 2 時間が経っていました。バカですね。だから本多良でも落ちたのです。『懲りない面々』という本を書いた人がいましたね。アベの何とかさんだっただと思います。あへあへミックスではありませんよ。ところで J リートをなんであの時売らなかつたのですかね。だからいつも嫁さんのホンダ・ライフを借りないといけないんです。あのとき J リートを売っていれば、また小ベンツとかトヨタのレク何と



何とかたどりついた黒門山頂上  
木の上に一人サル男がいた。(笑)



かという車を買えたかどうかはわかりませんが。「お母さん、ぼくのあの帽子どうしたでしょうね。谷底に落としたあの麦わら帽子ですよ。」じゃないですよ。

で、どこまで来ましたか。退却、そう引き返し出したのですが、今度は腰が引けてあるけません。ズボンも尻が破けていて、恥ずかしいのなんの。でも誰もいません。

さて黒門に戻りましょう。川原顧問から任された福岡隊長はじめ斥候部隊員田○さん、山○さん、○○陽子さん、アナザー陽子さん、アヘアへ元治 6 名は一人の負傷もなく無事登頂を果たしました。途中何度も「これは登山じゃない。行だ。」叫びながら。

その夜は昼間の行から解放され、オレンジの歌姫さんたちの美声に酔いしれながら心ゆくまで、川原顧問と久しぶりに酒席を楽しむことができました。この山行を企画・準備・実行されました中須賀さん、歌姫さんたちの指揮を執られキャンプファイヤーを盛り上げていただきました小山先生、キャンプファイヤーと運転でお世話になった井上さん、おいしい料理をたくさん作っていただいた田村さんはじめ女性の方々、斥候部隊長の福岡さん、いろいろな面で叱咤激励を賜りました山下先輩、人生の師川原さん、ありがとうございました。次の山行はちゃんと道があるところにしてください。また、キャンプの企画お願いします。楽しかったです。

(文責 久保元治)

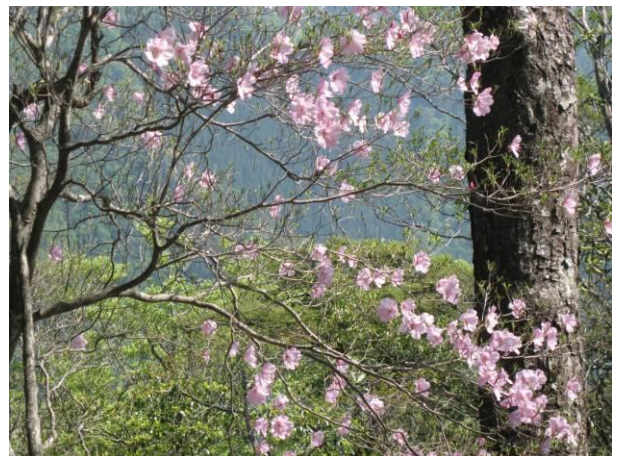
(感想) **5日** 大崩は二度目の山行である。去年、祝子川から行く予定で祝子川の公民館に宿を取ったものの雨に降られ岩場の危険を避けるため宇土内谷からの登山に切り替えた。その時アケボノツツジは堪能したが小積ダキの大岩峰などを見ることができなかった。今回できることなら大崩の大崩らしい所を行きたかった。だが、夏木山は又それなりに周回ルート(頂上分岐から犬流れ登山口)が変化に富んでいてアップダウンの大鋸、小鋸等皆で通る事が出来て楽しかった。アケボノツツジは若干開きすぎの感があり、ミツバツツジのほうが色が濃く目を引いた。

頂上までは比較的平均ペースで歩いたみたいだが周回の所でやはり時間をオーバーしたようだ。しかしあれだけのルートを 13 名事故もなく楽しく登り通すことが出来たのはやはり歴史あるオレンジだからだと思いに誇りに思えた。

帰りのバスの中、温泉に入る時間も無く帰って来たがそれでもビールがことのほか美味しく余興の歌も次から次と出て来て皆クライマーズハイの状態のようだった。

来年は小積ダキの大岩峰を見たいものだ。

(山下 記)





← 藤川のキャンプ場にてファイヤーを囲んで楽しむ  
写真提供 中須賀氏

→ 夏木山頂上にて



← 夏木山頂上から周回ルート大鋸の岩場登り  
写真提供 中須賀氏

→ 周回ルートの下り



おれんじニュースNo279	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2013. 5. 22
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	<a href="http://zd1307.s11.zdrv.com/wp_orange/">http://zd1307.s11.zdrv.com/wp_orange/</a>

今月号はカタクリとアケボノツツジで紙面を飾る事になると思ってたら皆さん文章に力が入ってて芥川賞でもねらってる？みたいな感想文で紙面が埋まっています。皆さん、力作をお楽しみ下さい(笑い) 山下